

被爆体験を語り継ぐ会

祖父と巡るヒロシマの旅

2019/06/29

アンケートまとめ 40 枚回収（参加者 90 名）

年代 小学生 1 名 20 代（大学生） 1 名 30 代 1 名 50 代 4 名
60 代 20 名 70 代 8 名 不明 5 名

この催しを何で知りましたか？

チラシを見て 4 名 知人友人からの誘い 34 名 その他 2 名

感想：抜粋

・「9 条を変えてはいかん!!」「9 条は守らなくてはいけない。」「平和でこそ自由に話せる」などが今日の話の中心と実感できた。

・戦争のすさまじさを実際に経験した人から聞いたことは大変有意義であった。加藤さんの知恵と工夫、記憶力の良さなど、生まれ持った生命力を感じました。

・私の祖父は広島生まれですが、8 月 6 日は九州にいたそうです。生きていたら聞いてみたかったです。戦争が地球上から消え平和になることを祈ります。

・大正 6 年生まれの父から聞いた戦争の話を、今日聞いたこととともに、孫たちに語り伝えたいと思いました。

・93 歳の高齢にもかかわらず、お元気にお話して下さったことに感服。「9 条を絶対にかえてはいけない。」と繰り返し言うておられましたが、戦争を体験されたからこそ強い想いが心に響きました。それを受け継ぐのは私たち。安倍政権の狙いを粉碎しよう！

・対談形式が良かったです。心情がより強く自然に伝わってきました。

・本も読みましたが、お孫さんが丹念に粘り強く少しずつ、ていねいにお話を引き出している姿勢に敬服。祖父と孫の関係を超えた由衣さんの相手から学ぼうとする謙虚さによるものと思います。また、おじいさまのお話のまとめ方、深め方が素晴らしく、説得力があります。学問的追及としての客観性もおじいさまの話を輝かせていると思いました。

・平和な現在の中で、戦争について考え、平和の有難さを感じる機会をいただきありがとうございました。

・体験を聞くこと、孫が聴いて語り継ぐことの大切さを感じた。

憲法 9 条を守ることに、戦争は絶対にいけないという思いを広げたいと思う。政治と切り離せないことなので、政治に関心を向けさせることにも努めたい。

・私は昭和 25 年 8 月 6 日生まれです。広島とは縁が深い思いがあり、戦争の映画やテレビはすべて見るようにしてきたつもりです。子どもたちと「火垂るの墓」を泣きながら見たことは忘れられません。

・「9 条は絶対に変えてはいかん」という言葉とともに「今の時代は神様、自由にモノが言える。自由だから」の言葉も印象に残りました。

わずか 18 歳でもしっかりと自分で考えて行動したこと大したものだと思います。「語れずにいたことを全部話してさっぱりした、思い残すことはない。私が死んでも、この本に残っていると思うと嬉しい」と。愛葉さん、聞いて、書き残してくださってありがとうございます。

・戦争・原爆の悲惨な事実を聴き、平和の尊さをつくづく思います。

・「経験から学び、次世代に語り継ぐ。より良い世の中を次世代に残す。」これが人間の任務なのに、「あったことをなかったことにしよう、」なんておかしい。辛いことだったからこそ、二度と起こさないように工夫すべきなのに、「臭いものには蓋」的な考え方が世の中にはびこっているような気がしてならない。

・お孫さんが聴きとって学びまとめられたということが素晴らしい。今後への明るい兆しと感じられてうれしいです。

・大正 14 年 4 月生まれの私の父もこの頃、同じあたりに行っていたと聞いていたので、加藤さんのお話を身近に感じました。父はこのように詳しくは話せず、今後も聞けませんので、今日はありがたい機会となりました。

・「自衛隊が軍隊になったら必ず戦争が起きる。だから憲法 9 条は変えてはいけない」の言葉を忘れないことを決意します。

・このような実際の体験談を聞く機会はこれからどんどん減っていくので、今日は本当に貴重な時間でした。93 歳の加藤さんのしっかりした足取り、お話しぶり、記憶力の良さに感動しました。これからもお元気でお過ごしください。

・3 月に母の納骨で広島に行きました。駅前の専立寺の住職から色々なお話を伺ったこともあります。祖父の実家は廻船問屋だったそうですが、探すすべもありません。母は被爆し

ていませんが、思い入れはあります。伝えるべきことと思っています。

・ひとりでも多くの方に、このような貴重なお話をしてくださいますよう、これからもお元気でいてください。

・加藤さんが年齢よりとてもお若く見えて、お元気なのでびっくりしました。小学校で「はだしのゲン」全巻を読みました。戦争のお話を聴けて勉強になりました。

・10代での軍隊での苦しい生活がよくわかりました。救助の様子は生々しく、人間としての感情が失われていくことが想像できます。

・本日はありがとうございました。後半からの参加でしたが、加藤さんのお話をしっかりと心に刻み、「憲法9条は絶対に守る」ということを言い続けたいです。

「平和であるということがどれだけ大きなことを伝えていくことが大切です。本も読ませていただきました。一人でも多くの方に読んでいただきたいです。

・私の父も広島に救護班として出向き、被爆手帳を持っていました。父は何も話してくれませんでした。偶然引き出しの中にしまってあったのを見つけました。今、存命なら100歳くらい。70歳で何も語らずに亡くなりました。幸い一族に被爆の後遺症は出ませんでした。加藤さん、いつまでもお元気で。

・私の叔父は17歳で長崎で被爆しました。姉と6人の弟妹、そして父親が8月中に亡くなりました。(私の父は南方に出征していたので被爆せず。)

やはりずっと語らずにいましたが50歳になったころ、初めて、「話しておきたい、」と当時のことを話してくれました。その日からしばらくの間、夜ごと、夢にうなされていたことをはっきりと覚えています。

思い出したくないつらい記憶を、このように話して下さったことを心からありがたいと思います。

・父は戦争の話を一言も言わずに早く亡くなってしまいました。どれだけつらいことが多く、自分の意志に反することもやらされたのだらうと思います。

早く死んだのもそのせいかもしれません。

みんながつらいことを体験してきたのだと思いますが、その体験をしてきた人が誰もいなくなった時に、どうなるでしょうか。心配です。

今聞いておかなくては、そして語り継がねばと思いました。

[トップページに戻る](#)